



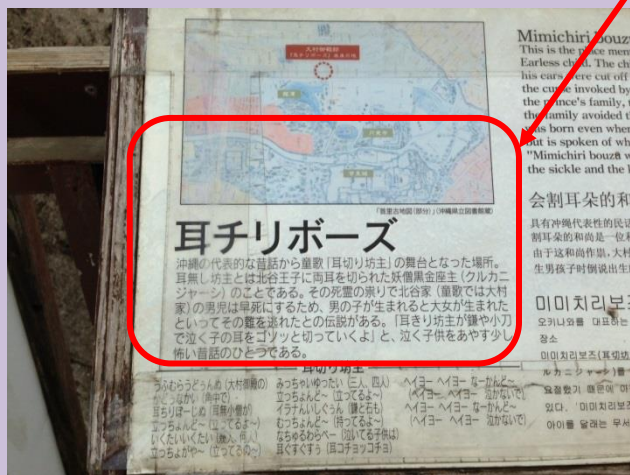
キーワード：大村御殿 黒金座主（クルガニザーシ） 盛海上人 護道院

ぐすーよー、しだくなとーいびんやーたい（みなさま、涼しくなってきましたね）！ 今月は、背筋が凍る怖い話をしますよ〜

那覇市首里大中町にある旧沖縄県立博物館跡は、王府時代、尚家の御殿※1（ウドウン）が建っていました（画像A）。その昔、大村（ウフムラ）御殿があり、文武、囲碁に優れた北谷王子が住んでいました。王子は王命により謀叛を企てていると噂のある囲碁の名手、黒金座主を調べ、噂が正しいと確信しました。

2人は囲碁で対決。王子が負けたら歎髻（カタカシラ）を、座主が負けたら耳を切り落とすというカケをします。結果は王子が勝ち、座主は耳を切り落とされ、殺されてしまいました。その後、北谷家では座主の亡霊が出没。男の子が産まれると成長せず、死んでしまいました。悩んだ同家では、男の子が生まれると大きな声で「ウフィナグヌ産マリタン（大女が産まれた）」と叫ぶようになったといひます。※1 王子・按司の居宅、又は主の敬称

黒金座主のモデルは、波之上護国寺の元住職、盛海（せいかい）上人とされています。立派なお坊さんでしたが、発言力が強く、護道院（ごどういん）という寺へ隠居後は、盛海の噂に尾ひれがつき「耳切り坊主」の伝承につながったとされています。しかし定かではありません。



（執筆者撮影：耳チリポーズ案内板。旧県立博物館跡の石垣側にある。）

参考文献：

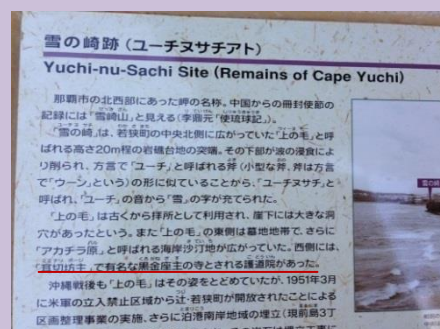
1. 那覇市企画部市史編集室編『那覇市史 資料篇 第2巻中の7 那覇の民俗』那覇市企画部市史編集室、1979、PP.805-807
2. 外間守善『沖縄の民話「黒金座主」』『季刊 民話の手帖』第14号（特集＝沖縄の民話）、日本民話の会、(株) 第一法規出版、1983、PP.24-26
3. 伊雲弘子編『沖縄 首里の昔話 一 小橋川 伊雲翁のチティバナーシー』昔話研究 資料叢書別巻、三弥井書店、1992、PP.107-111

こんな子守歌を聞いたことがありますか？

♪ 大村御殿めかど（門） なかい 耳切り坊主め立っちょんどー
 幾人幾人立っちょがやー 三人四人立っちょんどー
 イラナ（鎌） んシーグ（小刀） ん持っちょんどー
 泣ちゆるワラベ（童） 耳ぐすぐす
 ヘイヨーヘイヨー 泣かんどー〔くり返し〕

黒金座主が「耳切り坊主」の幽霊になり、大村御殿のかどに刃物をもって立っている、泣く子は耳を切り落とす…というこわ〜い子守歌です。

画像Aはデジタルアーカイブ阪巻・宝鈴文庫の530番（C-2）のP.24に載っています。また「黒金座主」についてもっと知りたいかた、次の参考文献がありますよ。 どうぞお読みください！（NK）



（執筆者撮影：若狭緑地案内板。）

検索用QRコード（スマホ版）はこちら！

